



歌浦っ子だより (学校だより)

「やさしい心 夢かがやく 歌小の子どもの育成」

平成30年12月 7日 文責:校長 内野義和

招待給食

11月26日(月)招待給食がありました。「サポート先生、チャレンジ先生をはじめ、日頃からお世話になっている地域の方々に感謝し、真心をもって接することができるようにする」「日頃からお世話になっている方々と一緒に、楽しい雰囲気の中で食事をすることができるようにする」が目的でした。



先日のスクールエリア推進委員会で、次のようなご指摘がありました。地域の行事に子どもが参加していても、しっかり話すことができていない。あいさつをしても下を向いたままであいさつをしない子どももいる。まさに本校の子どもの気になることです。

そこで、子どもが感謝の気持ちをもって地域の方々に接することができるように事前指導をしっかりするよう担任に言いました。

地域の方々がお帰りになる際に、子どもの様子をお聞きしたら、いろいろ質問をしてくれたり、話しかけたりしてくれて、とても楽しかったですと、どなたにもこにこして答えてくださいました。子どもなりにがんばったと思い、うれしくなりました。

これからもこういう機会をとらえて、子どもに対応力をつけていこうと思います。お越しいただいた地域の皆様、ありがとうございました。

『子どもが危ない！ スマホ社会の落とし穴』から2

清川輝基・内海裕美著『子どもが危ない！ スマホ社会の落とし穴』(2018年10月少年写真新聞社)から、今回は、「子どもの学びがやせ細る!」です。(＊は私の感想・意見を書いています。)

1 乳幼児から中高年にいたるスマホ、タブレット、ゲーム機などへの膨大な接触時間は、子どもたちの人格形成や社会性を育ててきた多様なナマ身の人間との出会いや触れ合いの時間を確実に奪っている。(そこで、学校ではいろいろな機会を設定し、地域の方々と触れ合えるようにしています。先日の招待給食もそうですし、6月に地域の方々をお呼びし行った「笑顔の集い」もそうです。また、1年「餅つき」、3年「スイートコーン栽培」「漁業見学」「スーパー見学」、4年「福祉の学習」「門松づくり」、5年「米づくり」「宿泊体験学習」などには、そのねらいもあります。)

2 メディアとの接触時間が増える一方で、活字の本を読む読書の時間や新聞を読む時間も劇的に減少している。(そこで、学校ではアリスの会の方々に協力していただき、毎週読み語りをしていただいたり、雨で朝からのランニングができないときは読書をしたりしています。また、はまゆう号を活用し、1か月に2冊は全員借りさせ、読ませるようにしています。さらに学校の図書室で平均して週に1回は読書をする時間を設定しています。)

3 東北大学加齢医学研究所の脳科学者・川島隆太教授らの研究で、驚くべき事実が明らかになった。川島教授らは、仙台市内の小中高生約7万人を対象に2013年からスマホの使用時間、自宅での勉強時間、睡眠時間、学力調査の成績を調査分析する研究を続けている。その研究結果は次のとおり。

・スマホを使うと、記憶、学習、行動抑制、予測などの人間ならではの脳の働きを司る前頭前野の血流が下がる。

・睡眠時間、自宅の勉強時間に関係なく、スマホを1時間以上使ったら、使えば使うほど成績は下がる。

・何もしないで無駄に過ごすよりもスマホを使う時間は脳にとって有害である。(1・2は学校でも補えますが、この3については無理です。深夜までスマホ漬け、ゲーム漬けになって翌朝、睡眠不足で来る子どもが授業についていけるはずがありません。この川島教授は「スマホは20歳までは与えないほうがいい」とまで言っています。)

以上見てきましたように、メディアとの接触時間やスマホを使う時間が増えると、豊かな人間形成にも影響しますし、学力の低下にも関係してきます。

やはり、メディア使用のルールをしっかり家庭で決め、子どもに実行させることが大切です。

学校でも繰り返しメディア使用については危険性、健康被害の面から指導していきます。また、先日のメディア学習会のように親子が学ぶ機会も設定していきます。

大切な子どもを守るために、学校、家庭でさらに連携していきましょう。